

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077900084
法人名	株式会社アクロス九州
事業所名	グループホーム コスモピア大木
所在地 (電話番号)	福岡県三猪郡大木町絵下古賀284-1 (電話) 0944-33-2322

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年10月14日	評価確定日	平成20年11月14日

【情報提供票より】(平成20年8月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	12 人	常勤	12人, 非常勤 0人, 常勤換算 4.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造合金メッキ鉄板葺造り 2階建ての1階～2階部分
------	------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)8,000円	
敷金	有(100,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 780円			

(4) 利用者の概要(8月30日現在)

利用者人数	15 名	男性	3 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たなか内科医院 / 日吉町倉田歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームコスモピア大木は、田園風景に囲まれた自然豊かな環境を有する閑静な住宅地の一角に位置している。ホームの畑では無農薬の野菜を収穫し、食の安全をモットーに美味しい食事を提供できるように取り組んでいる。2階建てのホームであるが、1階の共用スペースは、入居者の皆様にゆっくりとくつろいでいただいたり、レクリエーションを楽しんでいただくために居室を1部屋改築し広いスペースを設けている。日々のケアやサービスの質の向上を図るために大木町での事業者との連携を高め、情報交換を行い、勉強会に積極的に参加している。今後は、更に連携により、地域における認知症の理解を育むなど地域ケアの推進を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年度の外部評価の結果を受け、看護計画を作成している。また、ホームだよりにより地域にお役に立ちたいと認知症ケアに関する「相談窓口」を設置し、地域との連携を高めるなど改善に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者が内容を記載し、職員と話し合いながら、日々のケアやサービスを確認し作成している。自己評価により、出てきた課題はできることから改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>定期的に2ヶ月に1回開催している。会議では、入居状況の報告・ホームの取り組み・看取りにおける家族の協力・消防訓練の協力依頼など多彩なテーマを取り上げ、意見やアドバイスを得ている。地域の方の参加もあるので、地域情報を得る機会としても活かしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の面会時にコミュニケーションを取り、本音で話せる関係づくりを目標に意見や意向を聞いている。運営推進会議は、家族の意見や意向を言っただけのように活かしている。意見や意向は検討し、運営に反映していけるように努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>区会に加入しており、ホームだよりは、地域の方に個別に配布している。ホームだよりにより「耳より情報」として、認知症ケアに関する「相談窓口」の設置を掲載し、「何でも気軽にご相談ください。抱え込まない、思い悩まないことが大切です」と文書で伝えている。地域の公民館との連携を図り、公民館行事(老人会・お祭り)に参加している。また、近所の方から畑づくりの智恵を学んだり、軽トラックで肥料を持ってきてくれるなど、日常の付き合いを大切にしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	理念は「常に思いやりの心を持ち、福祉介護を通じて地域社会に信頼される事業を目指します」とし、方針として地域社会の中で入居者の尊厳を守り、職員が一丸となって安心して暮らしていただけるように支援していくことを掲げ、独自の理念をつくりあげている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	運営理念・方針は、使命として毎朝、朝礼時に全員で唱和し、理念の共有化を図り、理念の実現に向けて日々取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	区会に加入しており、ホームだよりは、地域の方に個別に配布している。ホームだよりに「耳より情報」として、認知症ケアに関する「相談窓口」の設置を掲載し、「何でも気軽にご相談ください。抱え込まない、思い悩まないことが大切です」と文書で伝えている。地域の公民館との連携を図り、公民館行事(老人会・お祭り)に参加している。また、近所の方から畑づくりの智恵を学んだり、軽トラックで肥料を持ってきてくれるなど、日常の付き合いを大切にしている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価は、管理者が内容を記載し、職員と話し合いながら、日々のケアやサービスを確認し作成している。自己評価により、出てきた課題はできることから改善に向けて取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	定期的な2ヶ月に1回開催している。会議では、入居状況の報告・ホームの取り組み・看取りにおける家族の協力・消防訓練の協力依頼など多彩なテーマを取り上げ、意見やアドバイスを得ている。地域の方の参加もあるので、地域情報を得る機会としても活かしている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	大木町地域ケア推進協議会のグループホーム代表として参加している。また、大木地区介護サービス事業所連絡会があり、介護支援専門員のネットワークを図る取り組みにも参加し、行政との連携を高めながら、地域ケアの推進をすすめている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	今後の課題として、入居者の重度化が予想され、権利擁護事業や成年後見制度を必要に応じて情報提供していきたいと考えている。行政や関係機関の権利擁護に関する研修情報などを把握し参加していく方針である。		家族への情報提供として、権利擁護に関するパンフレットを準備するなど情報提供の充実と研修への参加が期待される。
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	ホームだよりを発行すると共に、毎月、入居者の近況・写真などを家族へ郵送し、入居者の暮らしぶりを報告している。また、家族の面会の際には、金銭出納帳を確認しサインをいただいている。面会に来られない場合は、出納帳のコピーを郵送している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	家族とは、本音で話せる関係づくりを目指し、コミュニケーションを図るように取り組んでおり、面会の際に家族との雑談の中で意見や意向を把握するように努めている。また、運営推進会議で、意見や意向を言っただけのように取り組んでいる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	できる限り職員の異動は抑えている。夜勤や職員の休暇・離職の場合もあるので、入居者と職員とのなじみの関係を大切にし、ユニット間での交流を図り、日頃から入居者と職員とのなじみの関係を意識し取り組んでいる。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	採用にあたって、年齢や性別は問わないが、第一条件としてお年寄りが好きな方を重要視している。また、職員の能力や希望に応じて、研修やセミナーに参加できるように取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	大木町地域ケア推進協議会において、権利擁護の研修があり参加しており、人権に関する意識を高めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	2ヶ月に1回、勉強会を開催しており、「認知症におけるコミュニケーションの取り方」「ひやり・はっと及び事故報告書の書き方」など多彩なテーマを取り上げ、ケアやサービスの質の向上を図っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	地域のグループホーム連絡会(4ヶ所)及び地域密着型サービス事業所連絡会(大木町のグループホーム及び小規模多機能型居宅介護施設(5ヶ所)により設立)を通して、勉強会の開催や交流・情報交換・相互訪問を行い、サービスの質の向上を図っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	体験入居ができ、徐々なじみながら安心して入居できるように支援している。病院の紹介の場合は、病院に訪問し、入居者と面談を行い、入居者の状態把握を行っている。入居の際に入居者の精神的な負担をやわらげるようになじみの関係に配慮し取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじみながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	畑仕事を好まれる入居者があり、ホームの庭の畑は徐々に大きくなり、収穫が楽しみな状況である。入居者は家事の手伝いとして皮むき・後片づけを行い、できることを手伝っていただき、職員と入居者が共に助け合う関係を大切にしている。調査の当日は、職員が入居者に寄りそい、ゆったりと会話を楽しむ光景があり、職員が入居者とじっくり話ができる時間を大切にケアを実践している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は担当制を採用し、入居者とのなじみの関係の中で日々のケアやサービスの提供ができるように努めている。入居者のこれまでの暮らしを把握するために「らしきノート」(生活史質問シート)を作成し、出生・幼少期の過ごし方・性格・得意なこと・戦争体験など、これまでの生活歴を把握できるように取り組んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の意見を参考にサービス担当者会議でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。また、看護計画も作成している。介護計画における日々のルーチン業務は計画からはずし、手順書として整理することが必要である。短期目標はわかりやすく、具体的な目標設定が望まれる。</p>		<p>短期目標を具体的にし、日々のケアやサービスが目標達成に向けた内容に集約していくことが求められる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な3ヶ月の見直しや状態変化に応じた見直しを行っている。今後は重度化が予想され、お口のリハビリや下肢筋力の低下を防ぐためにリハビリやマッサージを導入するなど検討していくことも1つの方法であると考えられる。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>畑仕事を好まれる方は、ホームの畑を徐々に広くし、入居者本人が生きがいのある暮らしを楽しんでいただけるように本人本位の暮らしの楽しみを支援している。大木町や地域内の事業所とのネットワークを高めるために多様な事業所が参加する会に積極的に参加しており、今後は地域ケアの推進力として更なる展開が期待される。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医を最優先している。ホームには看護師が常駐しており、月2回の往診もあり、適切な入居者の健康管理を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	医療連携加算を取っており、「看取り支援の基本方針」を作成している。看取りの実績があり、職員に看護師がおり、病院入院も視野に入れ、主治医との24時間連携体制を築き終末期の体制を確立している。終末期における入居者と家族の関係を大切に支援を行っている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者本人の前では、ケアの話はしないようにしている。日常の中では、職員に入居者の立場になって傷つけないように声かけや言葉に配慮している。個人記録は一定の場所に保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	日々の暮らしの中で、何をしたいか、何を食べたいか、職員が一方的に決めるのではなく、ご自身で決めたり、選択できるように支援している。入居者の状態に応じて、畑づくりや買い物など役割を持って柔軟に日々の暮らしの中で生活リズムに配慮し、心のケアをモットーに希望にそった暮らしができるように取り組んでいる。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事はホームの畑で取れた野菜を料理に活かし、旬の味覚を楽しんでいただけるように目にも美味しく、入居者に食事を楽しみにしていただけるように取り組んでいる。食事は職員も同じテーブルにつき、和やかな雰囲気でお話をしながら食事をしていた。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	大浴場があり、ゆずを入れたり季節感を感じてゆったりと入浴できるように取り組んでいる。入浴は基本的には曜日を決めて入浴を支援している。経済的な面もあり、入居者の希望に応じた入浴は難しい状況はあるが、今後の取り組みに期待したい。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	日々の暮らしの中で畑仕事や家事・掃除・モップ掛けなど、入居者の能力が発揮できるように取り組んでいる。家族への手紙も一行でも書けるように支援している。また、知人など来られた際には、ご本人の好きな場所でゆっくり一緒にお茶を飲んで過ごせるように支援し、楽しみを持ち気晴らしができるように取り組んでいる。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	毎日、天気の良い日は、日課として散歩を楽しんでいたように取り組んでいる。車椅子の方は庭のベンチで日光浴を楽しんでいたいたり工夫している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	居室の鍵は一切かけることはなく、玄関も職員の見守りにより日中は鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	防災訓練は、年2回実施している。11月の消防訓練の際には地域の方に協力をお願いし地域の協力を得ている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	メインの食材は業者に配達してもらい、その日の献立を入居者に何を食べたいか、好みの料理を聞いて立てている。1日の栄養摂取量は1200cal、水分摂取量は1000ccを目安に献立を作成している。糖尿病の方は野菜を多く取っていただき、状態に応じてキザミ食やミキサー食など、その人に合った方法で食事をお召し上がりいただけるように支援している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	1階の共用空間は、以前、居室として使用していた空間をカラオケなどレクリエーションが多彩に楽しめるように改修している。共用空間の窓からは田園風景を一望でき、季節感を感じることができる。また、手摺も設置され、歩行訓練ができるように工夫している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は畳の空間や半分畳の空間などタイプがあり、入居者の状態に応じて対応できるようになっている。自分の居室として筆筒・写真などを持ち込み、自分らしい暮らしが継続できるように支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			